

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900021		
法人名	社会福祉法人 慈光会		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	〒824-0511 福岡県田川郡大任町大字今任原3401-116 Tel.0947-63-4150		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果確定日	平成 22年 11月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	平成22年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は町中より少し離れた所にあり地域の方にあまり知られていないのが現状です。地域密着として一昨年より少しずつグループホームの存在と地域での役割や必要性を拡大していこうと努力しています。また、隣接する特別養護老人ホームと共により良いケアサービスを充実させ入居者様、御家族様が安心して生活して頂けるよう信頼関係に努めていきたいと思っています。尚、働きやすい職場づくりを基本に職員の希望や要望を考慮し健康管理をおこない職員が定着でき働きがいのある事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養と併設の「グループホーム 幸」は、自然環境に恵まれた小高い丘の上に位置し、病院を改築した、1ユニット2階建てである。手づくりの畑と、花壇を見ながら室内に入ると、自慢の貼り絵等、利用者と職員の作品が廊下に飾られ、家庭的な雰囲気を出している。誰でも安心して入居出来るサービスと料金体制を確立し、地元の評価も高く、医療支援体制は万全で、充実した介護サービスを実践している。「ここがあなたの幸であり続ける家」という理念を基に、職員全員が、利用者本意の介護計画を作成し、いつまでも暮らし続けられることを、目標設定し、実践し、家族の信頼は深いものがある。今後は地域との交流を図りながら、介護相談や独居老人の声かけ運動等、地域から信頼されるグループホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2年前に解りやすく理念を作り替え昨年の外部評価後に新たに言葉を加えスタッフと理念の意味を理解し共有した上でサービスを提供していくようにしています。	「ここがあなたの幸でありつづける家」という理念を全職員で共有し、その具現化に向けた思いを、事業所内に掲示し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の所在する場所が町中から少し離れた場所にある為近所付き合いが困難である。また、スタッフ等も地元の方がおられずこの地域の事が解り難い状況でなかなか地域の一員として交流出来ていないのが現状です。運営推進会議等での今後の課題として討議しています。	入居年数と共に利用者の加齢による自立度の低下と、事業所が人里離れた場所にあることから、地域住民との付き合いが少なく、地域交流が思う様に図れないジレンマを抱いている。	職員の地域行事への参加による交流の輪の拡大、近隣小学校の体験学習やボランティアの受け入れ等、地域に密着したネットワーク作りが期待されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所では運営推進会議などで地域住民の方や区長、民生委員の方にグループホームの地域での役割などを説明し地域での相談窓口として活用して頂けるよう周知に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して入居者や地域の方々により良いサービスが提供できるよう意見を頂きサービスの向上に努めています。	2ヶ月に1回定期的開催し、行事や事業所の運営、地域との交流、災害防止、外部評価等を報告している。会議ではメンバーから積極的な提案や助言があり運営のヒントとしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当職員さんには何かとお世話になり大変有り難く思っています。事業所の取り組みの状況や実態、今後の方針などを相談し町や地域で必要とされる事業所を目指し運営していきたいと思っています。	管理者は行政の窓口に向き、担当職員と密に連絡を取り合い、事業所の取り組みの状況や実態、今後の方針などを相談し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為にはどういった物があるか職員が解るように説明しています。利用者の危険回避の為にあれ拘束しない方法が他にないかを考え取り組んでいます。	職員は身体拘束にあたる行為とは何かを共有認識し、言葉の虐待防止を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の利用者にも、さりげない見守りで緩やかに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で高齢者の虐待の実態と防止を学び職員に周知しています。事業所内では絶対にあってはならない事です。利用者の訴えや他者からの情報、身体状況を把握し見過ごされることのないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は介護支援専門員と兼任をしておりその数々の研修の中で日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学ぶ機会があり入居者ひとり一人に必要な判断をしています。また、学んだ事をスタッフに伝えたり研修を受けられるよう機会を持ち、周知に取り組んでいます。	管理者は制度を十分に熟知しているが、職員への浸透度が低い。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットが整備されていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料の整備、および制度理解のために職員の研修と家族への情報提供が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、御家族に関わる事業所の運営はお知らせや会議を開催し意見交換が出来るようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで質問や要望を伺っています。また、スタッフや管理者に直接 問う事も出来、要望などは出来るだけ叶う方向で受け止めサービスの向上に生かしています。	運営推進会議や家族の訪問時に家族の希望や意向を把握している。家族会の設立には至っていないが、今後は、忘年会やバーベキュー会等を企画し、家族交流会の発足へと検討中である。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案、要望はスタッフ会議などで話し合っています。代表者や管理者は良いと思う事は受け入れ、働きやすい職場作りを考えています。	スタッフ会議では、利用者サイドに立った要望や業務の流れの変更などの提言は柔軟に対応し、運営に反映する様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場づくりとして各々の希望が叶うように勤務形態や時間の調整を行っています。また、管理者や職員の努力や勤務状況を把握した上で給与等を定めやりがいのできるようにしています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用は性別・年齢では判断していません。また、利用者、職員間でトラブルなく楽しく働きやすい職場づくりを目指しています。	性別・年齢の区別なく、経験豊富な職員が多く、定年なしの職場である。利用者や職員間でのトラブルもなく働きやすい職場と捉えている。休憩室も整備され、休憩時間も交代でとっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重する為に本人の自己決定を優先した支援できるよう、職員に対し人権教育、啓発活動に取り組んでいます。	接遇教育の中で利用者の人権教育に関する研修を実施している。また、帰宅願望の事例などを通して、認知症と人権について理解を深めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があり参加しています。地域での研修会などにも積極的に参加し色々な事例を聞き学んでいます。また、資格所得にも力を入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループでの交流は頻繁に行っています。行事の手伝いやボランティアの参加等で交流を深めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネや管理者がニーズを把握しスタッフ等に周知できるようにしています。また、モニタリングにて新たな問題が発生していないか確認しスタッフからの情報を得て安心して暮らしていけるよう配慮しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成等でも必要な事で御家族の不安の解消や要望が叶うように努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所では入居希望であっても本当に入居する必要があるか 他のサービスで対応できないかなどを見極め支援していくようにしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所では日中の家事業務などは利用者に声かけし一緒に行えるように配慮しています。時には利用者のできる事をお願いし助け合って暮らしていけるように役割を持ってもらっています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と御家族の立場を把握し双方が良い関係でいられるように配慮しています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば TELで連絡をとるなどの援助をしています。屋外を散歩したり知人などに出会える機会を提供し、ドライブなどで懐かしい景色などを見物できるように配慮しています。	入居期間に比例する高齢化現象が、馴染みの人や場との関係継続が、困難になってきて、事業所としての悩みである。屋外散歩やドライブ、外食の機会を提供したり、家族に外出や外泊を依頼したりと、出来る限りの支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	この家で共同生活をする一員としてスタッフや他利用者で出来る事の役割を分担したり、共同作業をしたり支え合って生活しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者やご家族には暑中見舞いなどで関係を維持するようにしています。また、時間がとれば運営推進会議にも参加を促し地域の人々として接するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしく生活して頂くために どのように暮らしていきたいか、希望や要望を伺い叶うように努力しています。	利用者の視点に立って、どの様に暮らしたいのか、誰に会いたいのか、何を食べたいのか等、丁寧にアプローチしながら思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者各々の生活歴や生活環境を考慮し、趣味や好きな事ができ、生きがいとなるケアプラン作成を心がけている。また、スタッフ全員でサービス内容を把握し評価しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者 各々の一日を観察し、活動性や心身機能、気づきなどを申し送り等で報告 スタッフ間で把握に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の意向を確認し関係者を交えケア方針を決定しています。また、モニタリングにて評価、見直しをしてもっとも良いサービスが提供できるようにしています。	本人の意向や家族の要望と同意を得て、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングに基づいた見直しと、状況の変化に応じて臨機応変に見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や気づきを元にケアプランの見直しや変更を活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活していく上で発生する新たな課題は都度、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者 各々の暮らしを支えてきたスーパーや美容室、電気屋さんなどを出来るだけ利用し利用者はこの地域で暮らしている事が実感でき生活が楽しく思えるように支援しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診はできています。また、往診等も対応し 他科受診も行っています。病院等は本人やご家族の希望される病院を受診しています。	利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医または協力医への受診・往診が行われている。通院介助は、事業所に依る場合が多く、医療機関からの情報は家族と共有できている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの心身状況を職場内の看護師や訪問看護と共有し Drと相談しながら支援方針を決定しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により関係は出来ています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア マニュアルを作成し支援方法を説明しています。また、同意書も作成し承諾を得るようにしています。	事業所としてターミナルケアに関する意識が高く、すでにマニュアルを作成し、運営推進会議で支援方法を説明している。また、同意書も作成し、利用者や家族の承諾を得るようにしている。まだ看取りの事例はないが、今後は医師や職員のチーム支援が課題である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の方法は書面上では理解できているようですが訓練は実際のところ出来ていないのが現実です。今後の課題として定期的に訓練を行いたいと思います。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策としては徹底しておこなっていません。避難訓練・避難経路・一人ひとりの避難方法など昼夜を問わず考えられる事は訓練をしていくようにしています。また、地域や近隣施設にも協力体制を確保しています。	事業所単独で年2回、夜間を想定した実践的な訓練を実施している。近隣施設に協力体制を確保しているが、地域住民の参加・協力が得られ難い。非常食・備品の準備が不十分である。	地域住民の協力による避難訓練の実施と消防署との合同訓練、および非常用食料・飲料水、毛布等の備品の整備が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている場合と出来てない場合がありますが完璧ではありません。羞恥心を損ねない『さりげない』支援ができるように努力しています。	人生経験の長い職員が多く、職員からは、入居者を人生の先輩として尊厳の念をもって対応しているという言葉が聞かれ、気配りの介護ができています。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基本に希望や要望を伺い叶うように支援しています。すぐに対応できない事は関連職員やご家族と相談の上で後日でも叶うように援助しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームでは業務の流れは優先せず、利用者の希望でいつでも変更を可能としています。皆さんに何かしたい事を伺っていますがなかなか希望が出てきません。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際はおしゃれになるように支援しています。散髪も2ヶ月に訪問理容でできるようにしています。また、行き付けの美容室に行かれる方もいます。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事の楽しみを考え盛り付けなどにも気を使っています。準備や片づけもできる方はお願いして一緒におこなっています。	食事時、職員の利用者に対する働きかけは優しく穏やかで楽しそうな光景である。利用者は能力に応じて配膳の準備や後片付け等を行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日チェックしています。好きな物、嫌いな物を把握し提供できるようにし水分もゼリーや好みの飲み物を出せるように配慮しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は自己にておこなってもらいその後確認をしています。できない方は介助し 義歯は就寝時に殺菌処理しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が基本 とスタッフに指導しています。早めのトイレ誘導を心がけ自立支援に向け取り組んでいます。	排泄チェックシートを活用し、早めのトイレ誘導を心がけている。オムツ使用から簡易トイレ排泄へと自立度を高め、自信回復へと繋がった事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬はもちろん、食材や適度な運動を配慮支援しています。排便・排尿確認をし服薬コントロールしています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆さん高齢により介助が必要であり心臓への負担を考慮して現在は週/3回の入浴をしています。自分で入浴できる方は毎日でも良いとしています。希望を伺い、時間帯はスタッフの多くいる 日中に行い皆さんに了承を得ています。	入浴日は週3回、時間帯はスタッフの多い日中に設定しているが、本人の希望を汲みいれ柔軟に対応している。入浴拒否の場合でも、体調や気分に沿ってタイミングよく入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や一日の活動量を考慮し日課にメリハリがつくように配慮しています。引きこもりや寝たきり防止に努め健康管理をおこなっています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はDr・看護師の指示の下スタッフがこなしています。ひとり一人の内服薬の把握は確実に言い誤薬などの無いように努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などのできる役割分担はもちろん、お願いしています。ひとり一人の生活歴や趣味や特技を生かし生きがいにつながるようにしています。好きな事で出来なくなった事も共同で行うことで出来たりし喜ばれる事もあります。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さん加齢に伴い一年一年外出が困難となり外出を希望されなくなっています。以前は皆さんで公園に花を観に行ったりしていましたが現在は個別に行っています。また、御家族等にも協力してもらっています。	加齢に伴い年々外出が困難となり、外出希望も少ない。ただ、寿司屋など食事会への外出時には、しっかり目覚め元気が出て感動を表出される。今後も家族の協力を得て外食の予定がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族に了承を得た上でお金の所持を支援しています。また、ショッピングや買い物代行等で好きな物の購入が出来るようにサービスを提供しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話はいつでも出来ます。手紙はレク等でおこなうよう促しているのですが自分で字を書ける人が少なく代筆になっています。又、文章もスタッフが考えているようでなかなか出来ていないのが現状です。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備では整理整頓はもちろん、色々な面で配慮しています。利用者ひとり一人の意見を考慮しています。食堂から見える窓は前に壁がある為花や野菜などを育て楽しみのあるように工夫しています。	広々とした共有空間は、環境整備がなされており、清潔感がある。食堂や廊下には入居者作成の貼り絵や作品が掲示され、窓には花や野菜などの栽培スペースがあり、季節感を楽しむ工夫が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内の共用空間はホール兼食堂のみとなり狭く感じます。テーブル、椅子の他にソファを数個置きつつろげるようにしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内では自宅で使い慣れた家具などをできるだけ置けるようにしています。また、御本人にとっての思い出の品などを持参できるようにしています。	自宅から持参した馴染の家具や、小型の仏壇、身の回り品等が持ち込まれている。ベッドでの休憩時間が長い利用者には、馴染の物を傍に置くなどの工夫が見られる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の心身の状況を把握し主な活動範囲での安全を考慮した環境整備に努めています。		